

株式投資は「株価の動きを当てること」と思っている人が多いですが、ニュートンはこう言っています。「私には天体の運行の計算ならできるが、人間の狂気までは測れない」。狂気かどうかはともかく、投資家の心理が株価を動かしているのは確かです。それを事前に知るのにはかなり難しいので、「株には手を出さな」という人はさらに

改めて株式投資を考える

浪花おふくろ投信代表取締役 石津 史子



多いです。

でも、企業の製品やサービスが社会に受け入れられれば、売り上げと利益が伸び、利益に沿って株価も上がる、というの

は自然なこと。時間がかかると、場合もありますが、冷静な投資家も必ずいて、最後にはその企業の価値に気付いてくれるものです。ですから、まず考えるべきは、社会のこれからの姿であり、第二に、その企業が

社会に役立ってくれるかどうかです。

ただ、それだけでは足りません。私たちは、社会の傍観者ではありませんから、もっと「こうなるといい」という意思をこめた投資ができるはず。会社の品定めではなく、株式投資を通じて企業活動に参加し、いい社会を創っていく、という観点があっていいと思います。株式投資は元々、企業が価値あるものを作り出す活動に資金を投じて参加することだからです。

私たちの投資先に、南アフリカの携帯電話会社があります。電柱も電線もいらないので、アフリカ大陸で着実に伸びています。端末を使って送金できる仕掛けもあり、労働者が故郷に仕送りをするのに役立っています。デンマークにある糖尿病治療薬の会社には、この薬が人々の命を守ってくれると思うとエールを送りたくなります。幸せになるために、これからも人や社会を幸せにする企業に投資を続けていきたいと思っています。